

毎
の
月
衛
生

夏休み後の保育衛生

東京市社會局兒童掛長
醫學博士

廣 瀬

興

酷暑の夏休みも終つて、再び秋の幼稚園が始まります。

夏は田舎は勿論、都會の子供達にとつても、一年中、最も開放的であり、自由であります。而して、その生活は種々多様である。殊に都會に於ては、一夏中、焦げる様なコンクリートの街路に遊ばねばならなかつたもの、或は澄冷な高原に、潮鳴り高い海邊に愉快な避暑生活を樂しんだもの色々であらう。

其故に、再び始まつた幼稚園は、漸く春期四ヶ月の間苦心保育した統制は亂され、種々雑多の良否が潜入して來ないとは云へない。此の時にあつて、忘れてならぬことは性質上は勿論、身體的にも個々別々に、如何なる變化がこの夏休み中にあつたかをよく、觀察することであらう。衛生的なりいろ／＼の良し習慣、例へば早起き、齒ミガキ、ラ

ヂオ體操、冷水摩擦、薄着、或は偏食の矯正されたこと、よく咀嚼すること等、夏休み中の良い收穫を失はぬ様、又、反對のいろ／＼の悪い習慣は早く無くする様よく家庭と連絡をとることが肝心である。薄着や、成るべく皮膚を日光に曝す習慣はこの夏期より始めねばならない。日光浴が如何に腺病質の體質を改造するか少しく經驗したものの一驚するところである。幼稚園に於て、パンツだけの戸外遊びが秋おそくまで行ふことが出來ればどんなに冬期感冒よりまぬかれることであらう。少し位の風の日でも薄い腕出しシャツと短い靴下の習慣をつけたい。はだしの砂遊びもよろしい。夏の幼稚園や、臨海、林間保育に参加したものや家庭で轉地したものは大抵、悪い偏食の習慣も直されてくる。この機會にあともどりせぬ様に注意してやらねばなら

ない。偏食が如何に恐ろしい習慣で將來その兒の健康に重大の影響を及ぼすことを家庭にさとらしめることが必要である。食物の形、臭、色等によつて子供が極端の嫌惡を感じ、喰はず嫌ひをするのであるから、種々の手段で矯正せねばならない。好物の中に少しづつ添加するとか、形を變へるとか、香料を用ひるとか、工夫が大切である。秋の食事の進むときこの習慣を矯正するのがよい時期であらふ。

水道なればその心配は少いが井戸水なればその水に馴れるまで、生水をさけて湯を與へる方がよい。残暑酷しい頃は、遊戯前には充分水を與へて日射病をさけねばならぬ。開放的な自由の生活から、團體的の幾分制限された生活に變るのであるから、當分、充分午睡をとらせ、その後、よく洗面、ウガヒを行はせることは、いろ／＼の意味でよいことである。

登園始めに、一應、専門醫の身體検査が行へばこれに越したことはない。上流の家庭の幼兒でも避暑地歸りに、トラホーム、疥癬、シラミの土産を持つてくるものもある。眼に注意して流涙や充血、眼脂が氣付いたら検査が必要で

ある。水泳の後、水虫に苦しめられることがある。耳ダレ即ち慢性中耳炎を氣付かずに居ることがある。高原の生活から、蕁麻疹の習慣がつくことがある。草木や毒虫の刺戟が原因となるのである。

驅虫藥（セメン、マクニン）を與へて蛔虫蟯虫を防ぎたい。夏は一般に生まのものを攝ることが多いため感染の機會が多い。

登園早々、體重測定しておくことは今後の發育如何の目安ともなり、又夏休み前のものと比較が出来ればその結果によつてこの夏休みの生活の如何が批判が出来、來年夏期生活の好參考とならふ。秋の涼しい頃ともなればそろ／＼虚弱兒に肝油を與へ始める時期である。少量づつ長期に與へたい。腺弱兒虚弱兒には、日光浴と肝油の並用は効果が多い。

秋は食欲の亢進するときである。間食に注意して、量、質、時間を誤まらぬ様に。食事直前の間食は最も悪い。初秋の間食には新鮮の果物や牛乳がよろしい。過食のための胃腸病や、朝夕の温度の變化のための感胃に注意すること。

海水浴後、夜尿症を發することがある。女の子に膀胱カタル、腎盂炎の起り易い時期である。排尿時の疼痛、不明の發熱に注意すべし。

軽度の近眼、遠眼が夏休みの生活の變北のため、度を急速に増加せしめてゐることがある、看過してはならない。

幼稚園としては夏休み後、園児迎えるために、清潔な園舎

を用意すべきであらふ。各室のフォルマリン消毒、便所の

石灰乳撒布、砂場の次亜硫酸ソーダ液消毒は効果的である。

今秋は夏休み中の悪い點を除き、良い習慣を助長し、日

光と空氣と榮養の三條件に積極的の保育を試みたいものである。

會 告

前號でお断り申上げました如く、本誌八月號は休刊して、こゝに、八、九月分を合冊合輯したる九月號を發刊致します。

幼稚園の休暇と共に、暑中を休刊しましたお蔭を持ちまして、本誌係員一同、大いに銳氣を養ひ得ました事を厚く感謝申上げますと共に、今後益々本誌の充實を期して努力致したいと願つて居ります。

昭和七年九月

日本幼稚園協會